

義務教育学校推進室だより

令和元年6月3日 第26号

保護者の方の質問に回答いたします



本年度の3校の各PTA総会において質問等記入用紙を配付したところ、数名の保護者の方からご質問をいただきましたので、次のとおり回答いたします。

Q1・現状における学校の課題は何ですか。義務教育学校になることでそれらの課題がどのように解決しますか。また課題解決の状況をどのように測りますか。

3校ではそれぞれの実情に応じた教育活動を実践しています。しかしながら、児童生徒数の減少に伴い、多様な児童生徒との交流機会の確保が困難になりつつあります。義務教育学校になることで、ふれあいの幅が広くなり、豊かな情操教育につながります。

この成果については、毎年複数回実施している学校評価を活用していくことなどが考えられます。

Q2・現在の3校のよさを生かすため、義務教育学校で具体的に何を行うのですか。

3校の児童生徒のよさとして、思いやりがあり素直であることがあげられます。それらをさらに伸ばすために、義務教育学校ならではの異学年交流を工夫します。そうした活動を通して、社会性やコミュニケーション能力にも磨きをかけていきます。

Q3・開校年度以降の義務教育学校の予想児童生徒数はどう変わるのですか。

令和3年度：779名、令和4年度：783名、令和5年度：775名、令和6年度：753名、令和7年度：719名の見込みです。

Q4・登下校の安全性はどうなるのですか。

保護者の方々に調査していただいた通学路候補における危険箇所について、関係機関に合同点検を実施してもらい、対策必要箇所について検討し、着手して行きます。

開校後に報告された危険箇所についても、関係機関でスケジュール調整し、合同点検を随時実施します。

Q5・通学班編制や自転車通学はどの学年からになるのですか。

1～6年生は登校班による登校とし、7～9年生は自転車通学可能としたいと考えています。

Q6・新校舎と既存校舎の教室配置はどのようになりますか。

各ステージのまとまり等を考慮した配置を検討していきます。

Q7・工事が始まったときに、北中には東門からも入れるのですか。使用しなくなるとすれば、いつからですか。安全対策も含めて示してください。

東門は工事専用となり、生徒及び関係者の出入りは西門及び南門からとなります。既存校舎の東側を工事エリア、西側を学校運営エリアとして明確に区画することで工事中の安全を確保します。

なお、工事は夏休みからの予定であり、詳細については工事開始前には周知します。

Q 8・既存の北中校舎の耐震工事や改修予定はありますか。あるとすれば、いつになりますか。

耐震改修工事は平成23年に完了しています。義務教育学校化に伴う既存校舎の改修は令和2年度の予定です。

Q 9・プラッツや学童の建設場所や運営体制等について今後どのように話し合いを行い、決定していくのですか。また、決定事項についてはどのように保護者に伝えてもらえるのですか。

放課後児童クラブについては、学校敷地内に建設し、公募による指定管理で運営を行っていく予定です。決定した内容については、太田市HPでお知らせいたします。

こどもプラッツについては、学校の余裕教室等を利用し、地域のボランティアの方々の協力を得て運営していきます。

Q10・韮西小の学童・プラッツと、太田東小の学童の希望者を併せると、補助金助成対象を超える人数になることはないですか。

想定される児童数に相応した放課後児童クラブ数の設置を検討しています。

Q11・学校行事等での保護者の出入りが混雑することはないのですか。

全校で実施する行事の場合は、混雑が予想されます。このことを課題として捉え、可能な範囲で対応策を考えていきます。

Q12・全校での運動会では、待ち時間が長くなったり保護者観覧スペースが減ったりすることはないのですか。

実際は学校が計画しますが、昨年度の太田市教育研究所では、次のような方法が研究されています。

全校運動会は開閉会式を含めて約25種目、1人あたりの参加数が6~7種目程度となります。現在の3校の各運動会と比較すると種目数は若干増えますが、参加学年も増えるので、待ち時間が短縮できるプログラムとなります。保護者の観覧スペースについては、現在の北中テニスコートの北側が使用可能です。また、校舎側には保護者観覧用テントや、ビデオ撮影スペースを準備できます。

Q13・各ステージの活躍の場とは何ですか。

ステージ制には、リーダー性育成の機会を意図的に設定できるという利点があります。ステージ集会等の活動の中で、当該ステージの最上学年に企画運営を任せるなどの工夫を行うことで、上級生としての自覚をもたせたり、責任感を育んだりすることができます。

Q14・45分と50分の異なる授業時間に対応するための、開始・終了の合図（チャイム）はどうなるのですか。

1・3・5校時の開始の時刻を全校でそろえ、そのタイミングでチャイムを鳴らす予定です。授業の開始・終了がそろわない時刻にはチャイムを鳴らさないため、1日あたりのチャイム回数は減ることになります。

Q15・市内でここだけが5・6年50分授業になるのは不公平・試験的ではないのですか。

各学校は、学力向上対策として様々な取組を行っています。例えば、授業時間以外に10分間の学習を取り入れている学校もあります。5・6年の50分授業は教科担任制の導入に対応するものであり、あくまでも子どもたちのための学力向上対策の1つです。

Q16・休み時間の子供たちに対する安全面への配慮はどうなるのですか。また、校庭での前期課程と後期課程の遊び場はどのようになりますか。

現在の案では後期課程には20分休みがありません。しかし、昼休みには前後期で重なる時間帯がありますので、安全面に配慮した前後期の児童生徒の交流活動に使ったり、前後期の児童生徒が遊ぶエリアを区切ったりすることなどが考えられます。

Q17・中庭は前期課程児童の専用スペースとなるのですか。

計画された交流活動や学習活動では後期課程の生徒も使うことが考えられます。しかし、20分休みには前期課程の児童専用とすることが望ましいと考えています。

Q18・校名や制服・体育着選定委員会はいつ行われるのですか。

初回について、校名選定委員会は5月、制服・体育着選定委員会は6月を予定しています。必要に応じ、複数回開催します。

Q19・義務教育学校になることで、小5・6はリーダー性を失い、中1は役割が真逆になり、勉強も違ってくる時に負担が増えるのではないのでしょうか。

5・6年生は、ステージにおいては下級生となりますが、児童生徒会や異学年交流等で様々な役割を与えるなど、教育活動を工夫することで、リーダー性を育成できると考えます。

7年生については、ステージⅢにおけるリーダー的存在として自己有用感を持たせるなど、生き生きと学校生活を送れるよう教育活動を工夫します。

Q20・義務教育学校となることで、いじめ・中1ギャップは本当に減ると考えられるのですか。

義務教育学校では、6～15歳までの学習面・生活面での様々な情報を途切れることなく管理できます。これらの情報を生かすことで、児童生徒の様々な実態に応じた適切な指導を継続して行うことが可能になります。また、後期課程に進級しても、前期課程の担任等が同じ学校にすることが多いため、多くの教職員に不安や悩みの相談等を行いやすく、いじめや不登校のリスクを減らすことができます。

Q21・なぜ中学生と小学生との関わりを積極的に行うのですか。

現代社会では、少子化や核家族化等の影響により、子供たちの集団遊びの機会や年齢の離れた子ども同士の間合いが減少しています。そのため、子どもの社会性やコミュニケーション能力の育成が学校に求められるようになってきています。学校においては、それらをよりよく育てるため、異年齢での関わりを意図的に設定したり、多様な教員が児童生徒に関わる場面を設けたりすることが重要になっています。これらに 대응する仕組みとして、施設一体型の義務教育学校は、非常に効果的であると考えます。

Q22・中学生のカリキュラムで、他学年と交流している時間が確保できるのですか。

中学生の場合、年間の授業時数は1015時間を標準としています。最も授業日数が少ない中学3年生においては、全体で年間約1100時間が確保できるため、余剰時間数の中で、行事や児童生徒会等での異学年交流の時間を確保できることとなります。また、授業時数に含めない朝活動等を含めれば、さらに交流活動を充実させることが可能であると考えています。

Q23・現在の3校の学用品等を使用してよい時期はいつまでですか。

基本的に使用可能である間は、使用してよいことにするのが適当であると考えています。

Q24・制服着用は何年生からになるのですか。

保護者アンケートでは、7年生から着用させたいという希望が多く、その結果を踏まえて制服・体育着選定委員会で話し合われることとなります。